

幼 兒 の 教 育

昭 和 八 年 四 月

眞 實

教育の學説は種々であらう。その原理を實現し得る設備の可能性も一つであるまい。保育者の性質も十人十色、その實際手法も百人百様であつてよい。是れ等に斯うでなければならぬといふ絶對的なものはない。

たゞ、如何なる幼稚園にも、如何なる保育法にも、如何なる性質傾向の保育者にも同一に缺くここの許されない絶對のものは眞實である。保育者その人の性格の眞實性である。

幼兒を保育するに才能も必要である。巧妙もあつたに越したこゝちはない。しかも、あの純眞なる小さき魂が、人生最初に先生を呼び慕ふこゝろの人が、眞實性に於て一點缺くる人であつた時、幼兒の性格發達上の不幸な損失は、如何に怖るべきこゝちであらう。

眞實のみが、人の友たるこゝちが出来る。況んや、人の師たるこゝちに於てをや。それは幼きものに對しても同様であるといふよりも、幼きものなるが故にこそ殊にそうである。